

道徳Journal

No.51

●風

大切なことは、大人自身が元気で輝いていること 北原照久……1

●21世紀・心の時代に

広げよう！ いのちの授業 鈴木中人………2

●道徳教育の方向

これからの道徳教育の重点課題 押谷由夫………6

●道徳授業 私の実践

関連的、発展的指導を意識した道徳授業 須貝牧子……10

シール貼りで自分発見！ 谷本里都子………13

小中学生の頃、僕は全く勉強をしませんでした。スポーツ店の息子でしたから体育は5ですが、他はオール1。四人兄弟の末っ子で、勉強のできる上三人とよく比較されました。どうしてお前だけダメなのかということ、近所の大人たちから度々聞かされ、反抗心が人一倍強かったため、勉強なんて絶対しないぞと思っていたのです。勉強はしない、その上答案用紙には何も書かないという態度でしたから点数のつけようがなかったのでしょうか。ところが印象に残っているのが、一十百万：と位を京まで言えたこと。学校の勉強は全くできませんでしたが、ものすごく大きな数を知っているという自信、同級生は言えないけど僕は言えるという自信がありました。だから大きくなくじらは漢字で「鯨」と書くのだと深く納得したこともよく憶えています。

高校進学はできないと思っていたのですが、何とか入れた本郷高校で、最初のテストに三択問題がありました。適当に○をつけてみたところ、まぐれで60点取れたのです。担任の沢辺先生は自分のことのように喜んでくれて「北原すごいな、お前はやればできるぞ」と僕のことをほめてくれました。ほめられたことがとてもうれしく、また次のテストでもほめてもらいたくて、教科書丸暗記の勉強をすぐに始めました。自分で自分に

大切なことは、
大人自身が
元気で輝いていること



ブリキのおもちゃ博物館館長 北原照久

問題を出すなど僕なりの工夫も重ねて、実力で70点、80点を取れるようになり、卒業時には総代でした。恩師にももらった「やればできる」はそれ以降、今日に至るまで、僕を何事にもチャレンジさせた大切な言葉です。

趣味の話ではありますが、五十歳を過ぎてからウクレレを弾き始めました。ダイビングや小型船舶の免許を獲得し、エレキギターにも挑戦して、ライブコンサートでも楽しく弾けるまでに上達したのです。五十六歳でサーフィン、ゴルフも始め、ゴルフのベストスコアはただ今84。

エレキギターを弾けるようになったお陰で、十七歳から憧れ続けた加山雄三さんにお会いできたばかりでなく、ステージに並んで弾くという、夢のようなことも実現しました。全く弾けなかったもので、コードひとつ憶えてもうれしいですし、一曲弾けるようになれば気分は最高。六十前の僕でもエレキの上達をほめられればうれししいし「他人をほめる」を信条のひとつとしているので、子どもたちと関われば心からほめてあげたいと思います。でももっと大切なのは、大人自身が元気で輝いていることだと思います。憧れの加山さんが僕たちの光であり続けてくださるように、僕たちも子どもたちにとって輝く大人でありたいものです。(きたはら てるひさ)



広げよう！ いのちの授業

NPO法人 いのちをバトンタッチする会代表 鈴木中人

1. はじめに

「いのちって何」「家族は何のためにあるの」「死にたい」と、子どもがあなたをみつめるとき、あなたは何を示し教えますか。

いじめ、自殺、虐待、少年犯罪などが連日報道されています。いのちが粗末にされている、家族の絆が切れかけている、子どもの心はどうなっているのだろうか、と多くの親や大人が感じています。あなたも、いのちの大切さと家族の絆をどのように子どもたちに示し教えたらいのか、悩んでいるのではないのでしょうか。

私は、長女を小児がんで亡くした体験のもとに、全国の学校や地域で「いのちの授業」をしています。もう四万人の子どもたちや家族が参加してくれました。

今回、授業を通じてみつめた子どもたちの心や気づきを綴りました。拙い思いですが、いのちの教育の小さなヒントになれば幸いです。

2. 「生と死」の教育

私は、三年間の長女の闘病、長女との死別、小児がん患者・家族の支援活動などを通じて、いのち・家族・生きる・死とは何かを、時に涙を流しながら思ってきました。

やがて、原体験をもとに、いのちと家族について、本を出版したり、お話をさせていただ

たりするようになりました。そして、二〇〇五年に会社を早期退職し、いのちを大切に作る家庭・地域・社会を築くことを願い、いのちの授業に取り組み始めました。

活動を進めるに当たり、社会教育としてのいのちの授業を実践するためには、個人体験を「教育」として仕立て直すことが必要だと考え、次のことを心しました。

◇ありのままに生と死をみつめる

生きることと死ぬことは、別々のことではありません。死をみつめることが、生きること、いのちをみつめることになります。死と向き合うことなくしては、いのちの教育を深めることはできないと考え、死んでいく少女とその家族の姿を、ありのままに語ることにしました。

◇普遍的ないのちのメッセージを伝える

生と死を語る時、そのメッセージは、時として伝える人の特定の価値志向性が強く出ることがあります。子どもたちは、教えられたことを糧に、八十年歩みます。目先のはやりごとではなく、どんな社会や時代になっても人として育んでもらいたい大切な根っこを、具体的に伝えることにしました。

それはとてもシンプルなことです。

「いのちには体のいのちと心のいのちがある。体のいのちは必ず終わるが、心のいのち

は思いとなり、多くの人にバトンタッチされていく。いのちを大切にすることは、体のいのちでは健康を保つこと、心のいのちでは思いをもって行動すること」

「人は必ず死ぬ。だからこそ、今を一生懸命に生きよう。人は一人だけでは生きられないから支え合おう。いのちはかけがえないから一人ひとりが尊厳ある存在でいよう。人生には困難があるから、その困難に向き合い意味あるものにしよう」

「どんなことがあっても、お父さん・お母さんより絶対に早く死んではいけない！」

◇自問自答を通じて生活の中の小さな実践を導く

いのちを大切にすることは、目で見ることでも手で触ることもできません。また、いのちの教育は、知識やテクニックを教えるものでもありません。「知っていること」と「できること」と「していること」は全く違います。だからこそ、子ども自身がいのちについて何だろうと問うことから、命を大切にするために、普通の生活の中でしたいことをまず一つみつけ、それを実践することが重要だと考えました。

人に死ねと言わない、ハンデのある人に席を譲る、ありがとうと言う、部活を一生懸命にがんばるなど、身の回りの小さな実践の積

み重ねこそが、心を育み自分を変えていくのだと思います。

◇いのちと家族の絆をみつめる

私たちは、人と人のかかわり、家族の営みや姿を通じて、いのちをいちばん強く感じるのではないのでしょうか。大切な人と死別する、新しいいのちを授かる、ハンデを背負いながらいのちを輝かせる人と出会う、涙するときに支えてくれる人の存在に気づく……。

愛された人は、人を愛することができます。肯定された人は、人を肯定することができます。虐待は世代間連鎖すると言われ、その連鎖を断ちきるのには難しいことかもしれません。しかし、人を育む原点は、家族です。家族の姿や思いの中に、いのちをみつめてこそ、いのちを大切にすることが芽吹き、根づいていくと感じます。

以上のことを胸に、小学生向け・中高生向け・一般向けに三つのプログラムを作り、「いのちの授業」いのちのバトンタッチ……いのちの大切さと家族の絆を子どもたちに語り継ぐ」をテーマに、授業に取り組みました。

3. いのちの授業へのメッセージ

活動は、地元の愛知県を中心に口コミで少しずつ広がり、愛知県命を大切にしている教育研究会委員、愛知県総合教育センターの道徳・進路指

導研修講師を拜命し、横浜市や京都市教育委員会での連携事業のほか、自治体や企業でも講演の話を賜りました。

やがて、全国の小中高生、大学生、親、先生からメッセージが届くようになりました。

◇子どもたち

「死ぬのがこわくて、夜ねむれませんでした。いのちはそれほど大切にしなければいけないのだと思いました」「病気のお母さんをゆっくりさせてあげたい、お母さんより絶対早く死んではいけないと思った」「生きていることが当たり前じゃない。生きて生き抜くことを考えるようになった」「ありがとう・ごめんなさいを言える人こそいのちが輝くと思った」

◇親、教育関係者

「子どもに伝えなければならぬ大切なことがいばんだと気づきました」「娘がはじめで部活をやめました。ぜひこの授業をみんなで聴いてほしいです」「生きることに



いのちの授業 中学校 (愛知県)



小中学校教職員研修 (愛知県)

鈍感になっている自分を、涙を流しながら感じました」「いのちの授業が生きる喜びや人を大切にする心を育み、必ず世の中を変えていくと思います」

一方で、はっとする気づきもありました。

「わたしは死んだことがあります。どうして、死んだら生き返らないと、みんなはわかるのでしょうか」

死に触れた体験がない小学一年生が、「死んだら生き返る」と考えることは、自然なことかも知れません。親や大人は、現実の死と遺された人の涙をみせて、いのちはかけがえがない、自分一人のものでないことを伝えているのでしょうか。



いのちの授業 小学校（三重県）

「なんであんな親を大切にしなければいけないのか。親を大切にすることがいのちを大切にすることなら、いのちなんていらない」

自分の損得だけを考える親や大人の姿は、子どもの目にどう映るでしょうか。親や大人は、美しい言葉を言うだけではなく、後からくる人のために小さな実践をしているでしょうか。

「死にたい。親も先生もわかってくれない。一人ぼっちです」

愛されていない、生きる価値がない、誰も涙を流してくれないと、絶望的な孤独感の中にいる子どもを、道理だけで支えることは難しいことです。一人ぼっちでないことを子どもにも全身で感じてもらうことが必要です。親や大人は、一人の子どもを一人の人間として扱い、本気で向き合っているでしょうか。

4. 親が、大人が示し教えること

いのちの授業を重ねる中で、いのちを大切にすることを育むために、次の三つのことを心しなければと感じるようになりました。

- ①子どもにはいのちをみつめ、絆を願う確かな心がある。
- ②子どもにはいのちと絆への共通な思いや感性がある。
- ③子どもの姿は親や大人の姿。親や大人が変われば子どもも変わる。

すなわち、親や大人が子どもの声に心を傾け、語り合う（示し教える）とき、いのちを大切にすることを絆は、必ず育まれます。

これは、私自身の「思い上がり」や「勘違い」に気づいたということでもありました。いのちの教育を考えると、子どもたちに「いのちの大切さを実感させる」「何をどのように教

えるか」という目線で、つい考えてしまうことが多いように感じます。

しかし、まずしなければいけないことは、親や大人自身が、いのちや絆を大切にすることではないでしょうか。どんなに立派な言葉を重ねても、言っていることとしていることが一致しなければ、子どもの心に届かないと思います。

次に大切なことは、子どもの目線で、普通の生活の中で、いのちの大切さや家族の絆を示すことだと思います。

例えば、子どもは、お母さんがいのちをかけて生んでくれたことや、自分の名前への親の思いを知り、親の愛情を感じたときに「生んでくれてありがとう」と話してくれます。

「いただきます、ごちそうさま」と手を合わせるのには、いただくいのちと食事を作ってくれた人へのお礼のためだと知ることが、生かされている自覚、感謝の気持ちを育みます。

父母、祖父母……、みんなが必死で生きてくれたからこそ、自分のいのちがある、豊かな社会がある。自分のいのち一つではなく、いのちのつながりを実感してこそ、みんなのために一生懸命に生きよう、との思いが芽吹くのではないのでしょうか。

子どもに、「こうしなさい」と押しつけても、耳をふさぎ、心を閉じるだけです。赤ちゃんの心は、真っ白で純情そのものだったはずですが、

もし、子どもの心が荒んでいるとしたら、それは親や大人の責任だと思えます。

今、親や大人が本当にすべきことは、「示し教える」ことです。そして、何をどのように教えるかを考える前に、親や大人自身が、どんな姿を子どもたちに示したらよいかをみつめることが必要でしょう。ある意味では、自分の生き方、生活の仕方、本当に大切なことは何かをもう一度考えることもかもしれません。

子どもたちのメッセージをもとに、「いのちの授業」親や大人が示し教えること」を新たに始めました。親や大人自身が自分を見つめ直す場も、大切ないのちの授業だと思えます。

5. いのちを教える志

一度きりのいのちの授業は、万能ではありません。社会が変化する中で、一人ひとりが確かな思いを抱き、地道に進めていくことが不可欠のように思います。今、いのちの授業に取り組むときに、私が志していることが三つあります。

①百年の人づくりを思い、よいことをする空しさにくじけない

よいことを百回、千回続けても、世の中はなかなか変わりません。やがて、その意味を疑い出し、空しくなって止めてしまいます。だからこそ、みんなでのいのちの教育の意味を何度も語り合うことを大切にしたいと思いま

す。

②子どもを地域と社会の「かすがい」と考え、子どもを育てる人がいのちと絆についての考えを再構築するための役割を担う

いのちの教育は、教室で、先生が生徒に教えるだけではありません。家庭で、地域で、社会で、みんなが手を携えてこそ実現できます。子どもを育てる人に知識やテクニックを教えるだけではなく、親子で、家族で、地域で取り組む活動を、意図的に進めることを大切にしたいと思えます。

③授業者が動ける、やる気が出るしくみをつくり、いのちがすべての原点であると思いを定めて、社会総がかりで取り組む

いのちの授業は、現実的には、時間も人もお金も必要です。気合いだけでは続きません。授業者に投げるだけ、学校を批判するだけではなく、みんなで取り組むことが大切です。

6. 終わりに

小学生からのメッセージをご紹介します。

「おやこうこうしようとおもっても、ぼくはなんにもとりえがありません。かあさんととうさんにいつもめいわくをかけています。なにかないかとかんがえてみたら、かあさんととうさんよりもはやくしなないにしました。ぼくはがんばっていきいていこうとおもいました」

担任の先生のメモもありました。

「この子は六年生の男の子です。漢字をほとんど書くことができません。いつも無口で何を考えているか、心配していましたが、この子の気持ちを知ったとき、目頭が熱くなりました。職員室で話すと、みんなが涙を流していました」

いのちをみつめたときに、この子が決めたことは、家族に寄り添い、親より絶対に早く死なないことでした。漢字は書けなくとも立派な心根を育んでくれました。この心根を育めたのは、この子に、いのちの大切さ、家族の絆を伝えようとした家族、先生などの大人がいたからです。

あなたの思いをあなたの言葉で語り継げば、子どもたちは絶対に受け取ってくれます。ぜひ、家庭で、職場で、地域で語り合ってください。一人の歩は小さな歩ですが、百人で百歩、千人で千歩になります。

(すずき なかと)



業授のいのちのうようげ
都京INフォーラム全国
(2007)
左から、押谷由夫昭和女子大
学教授、筆者、森清範清水寺
貫主、門川大作京都市教育長

道徳教育の方向

これからの 道徳教育の重点課題

—人間の尊厳の自覚を培い、人とのかかわりを深める—

昭和女子大学教授 押谷由夫



全国で子どもたちの悲しい事件が続発しています。道徳教育を通して人と人のかかわり合いを深めれば、多くの子どもたちが救われるのにと、じくじたる思いにかられます。学校全体で道徳教育に取り組む体制づくりを、早急に行わなければなりません。

1 人とかかわりをもっと しない子どもたち

今、一番気になることは、他人を無視する（つまり人とかかわりをもととせず、引きこもってしまう）子どもたちが増えてきていることです。どうしてでしょうか。

(1) 自己愛偏重社会

現在の社会を一言で表すと、自己愛偏重社会と捉えられます。つまり自分だけの心地よさを追求する社会です。数年前、ある宅配便会社のキャッチコピーに「あなたのわがまま、運びます」とありました。現在の社会を端的に言い表しているように思います。もはや生活の利便を越えて、「たとえあなたの要望がただのわがままだと思っても、そのわがままに応えるようなサービスを提供していきますよ。」というメッセージに思えます。

つまり現在の社会というのは、人とかかわらない方が快適に暮らせる社会、また、わがままが何でも許される社会へと向かっており、当然、そこからは王様気分が味わえる社会という

ようになっていくでしょう。

(2) 大人自身の問題でもある

そのような社会は間違いなく大人たちが築き上げたものです。そして、我々大人自身、そうした生活に慣らされています。当然子どもたちは影響をまともに受けて、自分勝手に感情のままに生活するようになっていきます。気に入らないことがあれば平気で人を批判する。大人や先生だけではなく、お年寄り、あるいはハンデのある人も対象にしてしまう。そういう子どもたちに自然と育ってしまいます。

そして勝手に人を評価しランクづけする傾向が見られるようになります。つまり、自分だけで作り上げた価値基準で行動する。自分さえよければいい、自分の都合のよい人とだけ仲良くする、気に入らない友だちは排斥する、差別意識をもつ。それは、子どもたちの世界の中だけではなく、大人においても同様の傾向がみられます。

(3) 道徳教育の使命

ここに道徳教育の大切さが改めて主張できます。道徳教育は、一人一人をかけがえのない存在として大切にすると、そして社会の一員としていろいろなかかわりを豊かにもてるようにする、またそれらを通して一人一人が生き甲斐をもって人間らしく生きられるようにするものです。その道徳教育の基本である他者や社会とのかかわりを、もとうとしない子どもたちや大人が増

えていくような社会では、道徳教育がますます廃れていくという悪循環に陥るでしょう。

道徳教育をしつかり行うことは、いろいろなかわりを豊かにしながらともによりよく生きていく幸せを味わえるようにしていくことなのです。

2 人間の尊厳を 自覚できるよつこつよつ

では、どのように道徳教育に取り組めばいいのでしょうか。まず、人間の尊厳を自覚できるよつこつよつすることです。

(1)人間として生きることのすばらしさの実感
人間として生きていること、存在していることのすばらしさ、命があることの喜びやすばらしさを感じる心をしつかりはぐくまなければなりません。

例えば自分がよりよく生きようとする、あるいは、いろいろなことを失敗したり、してはいけないことをしたりして、反省する。そのこと自体、人間としてのすばらしさなのです。それは、人間だれもができることです。

道徳的価値を意識し追求めることは、人間の誇りや尊厳を自覚することでもあります。人間として生きることのすばらしさや可能性にしつかりと目を向け、そこから人間の尊厳を自覚できるようにしていくことが大切です。

(2)文化のすばらしさを通して

人間の尊厳を自覚させる

また、人間が創り出した文化のすばらしさを実感させることを通しても、人間の尊厳を自覚させることができます。多くの学校では、茶道や生け花、琴など、日本の伝統文化を子どもたちが体験できるようにし、そのすばらしさを体感させようとしています。

人間が創り出してきた文化は、脈々と受け継がれてきました。例えばお茶をたてて飲む。その心と行為はずつと続いているものです。だから、何百年も前に亡くなった人たちと心を通わせることができます。そこに込められた願いや思いを共有することができます。

そのようなすばらしい文化の中に私たちは生きています。その文化を楽しみ、次々と自分のものにしながら、またそれを伝えたり、さらに自分で創り出したりしていくことができます。そのことが人間の尊厳の自覚へと結びついていくのです。

日々学校で行う学習活動は、ともにこのような文化を学び、身につけ、伝え、享受し、発展させることでもあります。

(3)弱さやもろさも人間としてのよさ

さらに、人間は弱さやもろさをもち、同時にそれを乗り越える強さ、すばらしさをもっています。だからこそ人間としてのよさが引き出せるのです。人によっては、いろいろなハンディ

キャップを背負っている場合もあります。そのことを嫌悪し、認めようとしない生き方をしていけば、結局はいいかげんな生き方、命を大切にしない生き方へとつながっていきます。

そうではなく、自分の中に弱点がある、もろさがある、あるいはハンディキャップを背負っているということとは、それらと正面から向き合うことで私に新しい生き方を見つけるチャンスを与えてくれると捉える。そのように考えれば、むしろ弱さやもろさ、ハンディキャップに対して感謝の心も出てきます。そこに新しい生き方への意欲が芽生えてくるのではないでしょう。

そのようなことができること自体が人間の尊厳であり、人間であることの誇りであり、私自身であることの誇りである、という意識をもてるようにしたいのです。

3 道徳教育の基盤となる 教育・学習環境を整えよう

(1)教育に必要な真の権威

道徳教育は、学習環境の影響を大きく受けまなポイントです。今、特に課題として考えなければいけないのは、教育の場において権威が喪失しているということです。先生の権威、親の権威、大人の権威、あるいは学校の権威といったものがなくなりつつあります。

それは、秩序が保たれていない社会と捉えることができます。秩序のない社会においては、教育は成り立ちません。

本来、学校教育というのは、子どもたちを何とかよく育てたい、指導していききたいという願いをもつ先生と、しっかりと勉強して先生からいろいろなことを学びたいという学習意欲をもった子どもたちが、かかわりを深めていくことによって効果を発揮します。

ところが、子どもたちに先生を尊敬する気持ちがない、友だちと同じような形で対応している。学校という場を、地域で自由に遊んだり、家庭で好き勝手に生活しているのと同じような場であると捉えていけば、学校教育の効果は上がりません。権力ではなく、真の権威は教育の世界において絶対に必要です。

(2)教師が子どもたちを尊敬することが大切

教師は、教師として尊敬される存在として子どもたちに認識されている必要があります。子どもたちの中には身なりを整えて礼儀正しくし、心を込めて接することで、尊敬される先生になれるのではないのでしょうか。また、先生は、一人一人の子どもにも敬意を示すという観点から、温かくかつ毅然たる態度をとる必要があります。子どもたちが敬意を表したり尊敬したりする人は、自分を認めてくれる人です。自分を大切にしてくれる人を敬うのです。子どもから尊敬される存在になりたいのであれば、子どもたち

一人一人を精一杯生きていくかけがえのない存在として尊敬しなくてはなりません。一人一人の子どもをかけがえのない存在として対応する。それは、道徳教育を行う教師や親の基本的姿勢として求められるのです。

(3)学校を精神的文化が感じられる場に

そして、学校は、一人一人の子どもを大切に、温かく迎える場として環境を整備し、精神的文化が感じられる環境を創っていく必要があります。学校は、学ぶ場所であり、みんなが一緒にあって人間としてよりよく成長していく場所です。子どもたちと教師と一緒に環境を整え、誇りのもてる学校にしていく。そのことを通して、学校の権威が子どもたちの心にもしっかりと意識されるようになります。

4 伝え合う力を育てよう

(1)多面的・総合的に取り組む

伝え合う力の育成も大切です。人とかかわりをもとうとしない子どもたちに対しては、特に伝え合う力を重視しなければなりません。伝え合う力というのは、国語科の目標に書かれており、国語科の学習を通してはぐくまれることが中心になりますが、もっと広い視点から伝え合う力の育成に取り組んでいく必要があります。

まずは対象別（同級生、下級生、上級生、先生、親など誰とかかわるのか）の伝え合う力の

育成が求められます。次には形態（どのような場で伝えるのか、1対1、1対多、多対1、多対多）を分けて考えます。そして方法（何で表現し伝えるのか）です。話し言葉や書き言葉、あるいは外国語でしっかりと伝える力を身につけさせる必要があります。そして同時に、体や音、絵、写真、ビデオ、インターネットなどで表現し伝える力も必要になってきます。

(2)伝え合う力を支える資質・能力、

価値意識の育成

伝え合う力を育てるために一番大切なのは、その土台となる資質や能力を育てることです。それには、相手の立場に立って考える力、相手を受け入れる力、伝えられる内容を理解する力、自分の考えをまとめる力、自信をもってわかり易く内容と心を伝える言葉の力等を挙げることができそうです。

そのような点をおさえていくと、それらにかかわる道徳的価値の意識をしっかりと育てていくにはいけないということに気づきます。

5 道徳の授業でより深いかかわりがもてるようにしよう

では、道徳の授業では、かかわり合う能力を育てるといふ視点からどのような改善を図っていけばよいのでしょうか。

(1)先生と子どもたちとのかかわり

道徳の授業では、心の響き合いが大切です。

まずは先生と子どもたちとのかわりです。道徳の授業の中では子どもたちとのコミュニケーションを深めていく必要があります。

道徳の時間では価値について考えたり価値の自覚を深めたりしますが、価値意識を共有できるようにするためには、互いの思いを共有し、同時に心の内を出し合う、語り合うというような話し合いが必要です。その話し合い活動を通して、先生と子どもたちとの心の響き合いが深まっています。

そのような状態になると先生の子ども理解はさらに深まり、同時に子どもたちの先生に対する理解も深まっています。そしていつそう太い絆で結ばれた信頼関係ができてきます。

(2) 子ども同士のかかわり

また、授業は、子ども同士においてもこのようなかかわりが深まっていくように展開する必要があります。

そのためには相手の話を共感的に聞いて受け止める姿勢をとること、相手にわかるように多様な表現で自分の意見を述べること、同時に子ども同士の話し合いや活動で感性や思考をもとに深めることが大切です。授業の中でそのような話し合いができてくれば、子ども同士の信頼感はおのずと深まっています。

(3) 自分自身との対話を深める

道徳の授業で最も大切なのは、自分自身との対話を深めていくことです。授業を通して、自

分自身について、人間について、友だちや先生について、道徳的価値の捉え方において新しい発見ができた、課題を見つけていることができた、ということが実感できるようにするのがいいです。

それらが積み重なって自己をトータルにしっかりと見つめられるようにしていくことが求められます。

(4) 資料とのかわり

さらに、道徳の授業で大切なことは資料とのかわりです。資料に描かれていることや人物などへの共感をきっかけに、今まで破れなかった殻を破って考えることができるようになったり、自分をより深く見つめることができるようになったりします。これが資料の役割であり、資料の本当の使い方だと思ふのです。

道徳の時間は、現実生活の中で考えている限りにおいてなかなか越えられなかった壁を、資料の世界に入り込む、あるいは資料の登場人物になりきることによって乗り越えさせてくれます。子どもたちが資料の世界に共感したり登場人物になりきったりしてイメージを豊かにしてクリエイティブに考えることによつて、日常生活のさまざまな場面でも、その視点で自分を見つめ直してみたり、登場人物と対話をしてみたりすることができるようになります。そうすることで、自分たちの生活をその資料の世界や登場人物に少しでも近づけていこうとします。子どもたちがそのような生活を送れるように、教師は事後

の指導を工夫していくのです。

(5) 自分自身、さまざまな人々、自然や崇高なもの、集団や社会とのかわりが深められる総合単元的道徳学習を

日常生活においても、自分自身とのかわり、さまざまな人々とのかわり、自然や崇高なものとのかわり、集団や社会とのかわりを、より深くもてるようにしていくことが求められます。それが豊かな体験です。日常生活においてこのようなかわりを深める豊かな体験と響き合える道徳の授業が大切なのです。

そのような発想から、総合単元的な道徳学習に取り組む必要があります。重点的に指導する道徳的価値について、総合単元的に計画を立て、子どもたちや保護者、地域の人々と一緒に道徳学習を深めていく実践を充実させていくのです。その際、『心のノート』が大きな役割を果たします。

それらの実践はすでに取り組まれており効果をあげています。さらなる実践の深まりを期待しています。

(おしなに よしお)



関連的、発展的指導を

意識した道徳授業

—生徒の感想を生かした二時間扱いの展開—

東京都練馬区立大泉中学校教諭 須貝牧子

重点にする内容項目を二時間扱いで

道徳の授業は、一時間で内容項目を一つ扱い、次の時間では別の内容項目を扱う、という形で進めることが多い。しかし、内容項目によっては、二時間扱いにして、二時間めは別の切り口から迫ったり、関連する内容項目を連続させたりすることで、より深くねらいに迫れるのではないかと感じるものがしばしばある。

例えば、終末のまとめで生徒が書いた感想には、教室内の発言では表れなかった各自の思いが表現

されている。教師が生徒一人ひとりの理解を深めるための絶好の資料である。また、クラスで紹介すれば、生徒の相互理解に役立つ、各自の考えがさらに深められるだろうと感じる感想が、必ずいくつもある。生徒の感想を出発点とした授業の展開が、道徳的価値の自覚を深めることにつながるのではないかと思う。

道徳の時間の楽しみを尋ねると、友だちの意見や考えを聞くことを挙げる生徒も多い。実際、生徒の感想を学級通信に載せて配布すると、生徒はまず自分のものが載っているかを確かめ、次に

「誰々のが載ってる」などとひとしきりしゃべった後、黙々と読み始める。同世代の仲間の考えを知り、自分自身の考えと比較するとは、生徒にとつてとても新鮮で興味あることなのである。

これらのことから、重点とする内容項目について、生徒の感想を軸に二時間扱いで展開する計画を立てた。

重点にする内容項目の選択

中学三年生は、進路選択という大事な問題を前に、いやおうなしに自分自身と向き合い始める時期

である。自分の進路を自分自身で決断することの大切さは、学活等を通じても指導しているが、道徳的価値としても扱いたい。そこで、学活で進路を扱う時期に合わせて、1―(3)「自主・自律」を二時間扱いで進めることにした。資料は、「自信をもって、自分自身のために」(『かけがえのないきみだから 中学生の道徳3年』学研)である。

さらに、関連項目として、その直前の授業で1―(4)「理想の実現」を扱い、生徒の意識を自分自身に向けさせることを意図した。全体で三時間の構成となった。

生徒の感想を生かして、関連を意識した授業を組み立てる

第一時の授業は、「目的や目標をもち、よりよく生きようとする積極的な態度を育てる」というねらいで展開した。資料は「女闘士成田真由美」(同)である。

この授業では、生徒自身が、これまで自分たちがどのように困難

〈学級通信No.9〉

伸ばす創る

大泉中学校 3年〇組

NO. 9 7. 11

道徳の授業から

「パラリンピックの成田真由美さん」

前回の道徳では、パラリンピック、アテネ大会の水泳種目で7個の金メダルを獲得した成田真由美さんの話を聴きました。度重なる困難に、いつも立ち向かっていった彼女の生き方を通して、困難に出会ったときに何が自分を動かすのかを考えてみました。今日は、みんなが考えたことを紹介したいと思います。



- ★自分としては一番良いのは、心の支えを見つけることだと思う。スポーツや人など、自分が接することができるものを見つけて、希望を持つことがよいと思う。
- ★何事もあきらめないで解決させようとする。
- ★どんなつらいことがあってもこれを乗り越えたら何かがあると思って生きてきた。
- ★今の自分、困難に負けないという強い心を持つこと。理想の自分を考えること。
- ★困難に当たったら、自身の思考と仲間思考で切り抜ける。ここで逃げたら挫折だよ。人生は困難なければつまらない。困難も楽しむことができれば、いい人生を歩むことができるだろう。マイナスを仲間にするによってそれをプラスにしてみよう。困難を重ねることにより、できるようになることだろう（と考える）。
- ★困難などから抜け出すには真由美さんのようにプラスに考えたり、何か抜け出すために目標を持ったり、といったことが大切だと思う。
- ★そのつらいことや苦しいことに立ち向かうとする気持ちがあれば乗り越えられると思う。
- ★どんなにつらいことがあっても、一緒にいる仲間のことや、自分の本当の夢をもう一度しっかり考えてみると乗り越えられると思う。
- ★その困難を乗り越えてこそ、自分の輝きに気付く。職場体験が八百屋で、すごくきつかったけど、頑張った（ことからそう思う）。
- ★つらいこと、苦しい時を乗り越えるときに一番必要じゃないかと思うことは、その状況を打破しようという勇気、気持が大切だと思います。
- ★誰かにアドバイスをもらったとしても、最終的に決めるのは自分なので、大切なのは「自分の強い心」だと思います。つらいときもマイナスで生きると、プラスに生



- きれば心から笑えて、楽な気持ちになれるときがあると私は信じています。
- ★自分の気持ち。まだやれるって思う。
- ★友達に助けてもらっても、やっぱり最後に必要なのは、自分の前向きな気持ちだと思う。
- ★周りの意見も大切だし、励ましの言葉も大切だけど、やっぱり最後は自分の意志でいろんなことを乗り越えていくことが大切だと思う。最後は、しっかりと自分の意志で吹がまるんだと思う。
- ★辛いことがあったら、まず、それに立ち向かうとする強い気持ちが必要だと思う。
- ★私は誰かの力を借りないと抜け出せないと思います。一人じゃ何もできないです。どんな困難からも、誰かの力を借りれば抜け出せる気がしました。
- ★やっぱり「もう一度頑張ろう」という気持ちになるには、「楽しく生きよう」とか「自分にはまだチャンスがある」とか思う前向きな気持ちが必要だと思います。
- ★何があってもあきらめない自分の強い気持ち。
- ★自分と周りの人を信じる。
- ★あきらめないで乗り越えられると信じて自分の限界をいどむ。乗り越えられたら自信になって、次の試練を乗り越えられるようになるはず。

今回みんなが書いてくれたことは、どれもそうだなあ、その通りだなあと思うものばかりでした。

★★君の「希望を持つこと」、★★君の「あきらめないで解決させようとする」、★★君の「乗り越えたら何かがあると思う」、★★君の「理想の自分を持つ」、★★君の「ここで逃げたら…」、★★君の「目標を持つ」、などなど。みんなの考えを挙げればきりがありませんが、どれも、解決に向けての一步を踏み出す力かなと思います。

みんなは、これまで、辛かったときや苦しかったときや困難をどうやって乗り越えてきたのでしょうか？なかなか解決できない問題で何日も苦しんだこともあったかもしれませんが、でも、それらをみんなは乗り越えてきたのでしよう。成田さんと同じようなものが、みんなの中にもあるのだと思います。

最近、苦しかったことはありますか？今はどうですか？これからはどうでしょう。

私自身にも改めて言い聞かせたいことですが、辛いことや苦しいことに出会っても、乗り越えたいと思います。誰かの力を借りてもいいし、頼ってもいいですよ。大切なことは、「乗り越えよう、乗り越えることが大切だ」と思えることだと思います。自分の人生を、頑張っていくっていいと思います。

を乗り越えてきたのかを振り返る中で、「周りの意見や励ましも大切だが、最後は自分の意志でい

んなことを乗り越えていくことが大切だと思う」というように、「自分の考え」で行動することの

大切さにふれる感想が出てきた。そこで、この感想をすくい上げ第二時の授業の導入で紹介した。このように、生徒の感想の中からその時間の内容項目につながるようなものを選び、授業に活用すると、生徒は自分たちの問題として授業に入っていく。さらに資料の内容が、前回がパラリンピックの選手で今回がオリンピックの選手という類似点もあり、前時の延長のようなとらえ方ができたことも効果的だった。

この授業は、「自主的に考え、誠実に実行してその結果に責任をもとうとする態度を育てる」というねらいで展開したが、「自分の考えをもとにして行動することの大切さ」に時間がかかり、結果に対する責任という点までしっかりと踏み込む余裕がなかった。すると、この時間の感想で、「自分の考えをもつことは大切だが、ときにはそれを表現しないことも大切ではないか」というようなことを書いた生徒がいた。日頃から、自主性や自由をはき違えて、自分の

意見なのだからどんな場合でもとにかく表現し、貫き通すことが大切だと考えている生徒もいるように感じていたので、この感想を手がかりに、第三時では、結果を考えるとという側面について深めることにした。

第三時は、「自らの規範意識を高め、自分の行為が及ぼす結果を考えたうえで実行しようとする態度を育てる」というねらいで展開した。第二時での生徒の感想を紹介し、表現しないことが大切とはどういうことなのか、また、三屋さんの言う「自分の道は、自分でデザインするもの」とはどういう意味なのかを、小グループによる話し合いで考えさせた。

話し合いを通して、自分の意見で行動することの大切さだけでなく、相手のことを考えることの必要性にも改めて気づき、自分自身をコントロールすることの重要性を自覚した生徒も多かった。中には、兄弟げんかになりそうときや友だちにいたずらをしようと思ったときにやめたことなどを思い

出し、自分をおさえた経験と結びつけて自分自身を振り返った生徒もいた。

生徒の思いにこたえる 道徳授業

内容項目の中で重点的に扱いた
いものによりに重みづけをす
るかについては、いろいろな方法
がある。肝心なのは、生徒たちの
心に響き、深く受けとめられるか
どうかであろう。

実は、今回、「どんな自分が本
当なのかまだ自分には見えない。
一生懸命やるのは好きではない反
面負けるのも嫌だったり、でも負
けてもそんなに悔しくなかったり
と、いろいろな自分がいてよくわか
らない」というような感想を書い
た生徒がいた。みんなの前では発
言しにくい内容である。学級通信
に載せていいか、念のため本人に
確認すると、あっさりとOKだっ
た。おそらく、クラスの仲間に伝
え、みんなはどうなのかと確かめ
てみたかったのだろう。クラスで
それを読んだとき、教室内には納

得し合うような空気が流れた。自
分と同じだと感じた生徒が多かっ
たのだと思う。生徒は、相互理解
を深めながら、同時に自己理解を

〈学級通信No.10〉

伸ばす創る

大泉中学校 3年〇組
NO. 10 7. 18

道徳の授業から
「自分自身のために・三屋裕子さん」

前回の道徳では、ロサンゼルス・オリンピックのバレーボールで活躍した三屋裕子さんの話を読みました。
「自分で納得ができるプレーをしよう」と思うようになってから変わったプレー。
「自分の考えだったらいいじゃない」といわれて気づいたこと。
「自分の道は、自分がデザインするものだ」と気づいた三屋さん。
いい言葉がたくさんありましたね。
三屋さんの生き方を通して、自分の意志で行動するということについて考えてみました。みんな、自分自身のこれまでの経験や今感じていること、あるいは、自分らしさについてなど、よく考えていたと思います。早速、みんなが考えたことを紹介します。

★自分自身のためにしなければならないことは、三屋さんのように、他人に好かれたがために、自分で自分自身に制限をしないことだと思う。人は他人に迷惑をかける程度に、自由でいなければならないと思う。
★前に、自分も、自分ができる一番良いプレーをしようという気持ちで心をかけて試合をしたら、良いプレーができた。そのときは前向きな気持ちばかりで、自分をコントロールできた感じだった。今もそれを続けている。
★「自分」は一人一人が持っていて、それぞれ違う自分があり、とても大切だと思った。
★自分は自分。思うがままに行動せよ。ただし、決められた範囲内（法律、校則）に限る。
★ありのままの自分を出すことが大切だと思うけれど、たまには、ありのままの自分を出さないことも大切だと思う。
★自分が本当にやりたいことをやっているときは、いつもの自分が出せる。
★「自分」は人のものだけでなく自分のもので、自分で支えていかなければならないものだと思う。
★周りの人に迷惑がかけられない程度に楽しければ、自分はそれでいい。
★自分というものはまだぼくには見えません。どんな自分が本当なのかかわからないです。みんなとはかみ合わないと思います。一生懸命やるのも何か好きじゃないし、かといって負けたくない一面もあり、でも、負けるのもそんなに悔しくなかったりと、こんな自分がよくわかりません。

★どれだけリラックスできるかが、自分との戦いだと思います。リラックスして仕事にのぞめるとき、一番いい自分が見える気がします。
★やっぱり自分は元気が一番だと思います。どんなことにも挑戦する、自分を貫いて、自分を見失わないように、いろんなことに挑みます。
★自分は自分の考えで行動し、他人の考えが、自分が共感できるものであれば取り込む。他人の目を気にせず自分のやり方のようにするのが自分。
★私は「本当の自分」を出せない時があります。卓球の試合で、観客の人たちにかっこいいところを見せたい、というより、失敗してかっこわるいところを見せたくないと思ってしまう。つい、本当の自分を出すよりも、偽りの自分で勝負してしまうことがあります。この文を読んで、周りは周り、自分は自分、頑張っている「本当の自分」を見てもらいたいと思いました。
★人と比べないで、自分を大切にすることが大事だと考えた。
★三屋さんの話を読んで自分の考え、意志を持つことって大切だと思いました。自分というものを大事にするには、今までのこともこれがあることも、しっかり自分の気持ちや考えで受けとめる。これはとても大事なことだと思う。失敗も、自分が出したこと。それも受けとめることが大事だと思う。
★「青年の失敗は、失敗をおそれ何もしたことである」という言葉を聞いたことがある。私はその通りだと思った。人生に失敗はつきものだと思う。だから、それをおそれず、自信を持つことが大切だと思う。
★自分が思っていることとみんなが思っていることは違うのかなあと勝手に思っていることと同じだと知って、私も自分の思っていることを言いました。それならとても気分がスッキリしました。それから私は、自分の思っていることははっきりと言える人間になりました。
★自分の意見をおさえて他人に合わせるも、気持ちはすっきりしないと思う。自分の思ったことが他の人から見ると変だとしても、それは正しいと思うから言った方がいいと思います。友達に合わせてもバツとしなかったし、たまに意見を言うことすきです。
★人に言われたことを真に受けついで自分も本当の自分であり、迷いを受け流してしまうのも本当の自分である。
★どんなときでも自分の考えを言う勇気は、あまりないけど、伝えれば、一人くらい同じ考えをしてくれる人がいるかもしれない。いなくても、自分は他のだれでもないから、自分だけの考え方なのはおかしくない。

特に、自分と周りとの関係には、みんな悩むことがあるようですね。それはそうです。人間、一人で暮らしているわけではないのですから。大人になっても難しい問題です。ただ、それを考える力は、★君の「ありのままの自分を出さないことも大切だ」というところから出てくると思います。出さないことが大切なのはどんな場合なのでしょう。本当の自分だからといって、何でも表に出すことがよいことなのかどうか。また、自分は自分だから、何が何でも愛さない、というのはどうでしょうか。こんなあたりを考えてみたいと思います。

深めていく。
生徒のよりよく生きたいという
願いにこたえられるよう、これか
ら、生徒と教師で考え合える道

〈授業の展開〉

	連続の意図	内容（発問は省略）
第一時	関連項目	1—(4)「理想の実現」資料「女闘士 成田真由美」 ○落ち込みながらも立ち上がっていく成田さんの生き方を通して、目的や目標をもち、よりよく生きようとする大切さを考えさせる。 ○終末の感想を、第二時の導入に活用する。
第二時	重点項目	1—(3)「自主・自律」資料「自信をもって、自分自身のために」・学級通信No.9 ○納得ができるプレーをと考え、「自分の考えだったらいいじゃない」と言われた三屋さんの経験を通して、自ら考え、判断し、行動することの大切さに気づかせる。 ○終末の感想をもとに、第三時でさらに深める。
第三時		1—(3)「自主・自律」資料 同上・学級通信No.10 ○自分の行為が及ばず結果について考えたうえで実行することの大切さを自覚させる。 ○三屋さんが言う「自分の道は、自分がデザインするもの」の意味を考えさせる。

徳の授業を展開していきたいと思
う。
(すがい まきこ)

シール貼りで自分発見！

—個人とクラスの変容がわかる
『心のノート』の活用で自己肯定感アップ—

香川県坂出市立東部中学校教諭 谷本里都子

『心のノート』のよさ

『心のノート』のよさとして、語りかけるようなメッセージをはじめとするわかりやすい表現、視覚的な美しさなどが挙げられる。しかし、このような表面的なよさで終わらせず、内容について深く考えてよさを生かす使い方をしたいと以前から考えていた。

『心のノート』のよさを本質的に生かした実践事例

載っている全員がさわやかな笑顔である『心のノート』30、31ページ

〈ワークシート1〉

「ええとこあるやん！」ワークシート

()年()組()番 氏名()

1. 次の25のことばの中から、自分の長所にあてはまるものを3つ選んで、その理由を記入しよう。

(1) 明るいい	(2) 正直な	(3) 思いやりのある	(4) まじめな	(5) 元気のある
(6) やさしい	(7) 個性的な	(8) めんどろみがいい	(9) だれとでも話せる	(10) 落ち着いた
(11) 素直な	(12) 行事に熱心	(13) 注意深い	(14) 人の話をよく聞く	(15) コーモアのある
(16) 頼りになる	(17) 公平な	(18) 責任感がある	(19) 親切な	(20) 言葉づかいがよい
(21) 親しみやすい	(22) 心があたたかい	(23) 勇気がある	(24) 涼やかな	(25) その他()

(記入例) ・～の時、…のように考えるから
・～の時、…のようにできるから
・～の時、…のように行動するから など

【自分の長所】

番号	あてはまることば	それを選んだ理由
4	まじめな	や.てはいけなり事はやらないと思う。
14	人の話をよく聞く	集会とか授業中で"ま.まっている事も聞けていよ"と思うから
12	行事に熱心	どの行事でも 真剣にできると思う

2. 上の25のことばの中から、同じグループの友だちの長所にあてはまるものを2つ選びましょう。

【友だちの長所】

友だち名	番号	あてはまることば	番号	あてはまることば
A	7	明るいい	19	親しみやすい
B	5	元気のある	9	だれとでも話せる

ージは、インパクトが非常に強い。また文章の一つひとつが生徒

にととって身近であり、生徒の強い共感と呼んでいる。そこで、この

ページのよさを本質的に生かす活用方法を考えた。

今回紹介するのは、生徒が自分の心の変容を視覚的にとらえられる、シールを用いた活用例である。この方法は生徒に好評であった。

①資料名

「ええとこあるやん！」(自作)

②主題名

個性の伸長 1—(5)

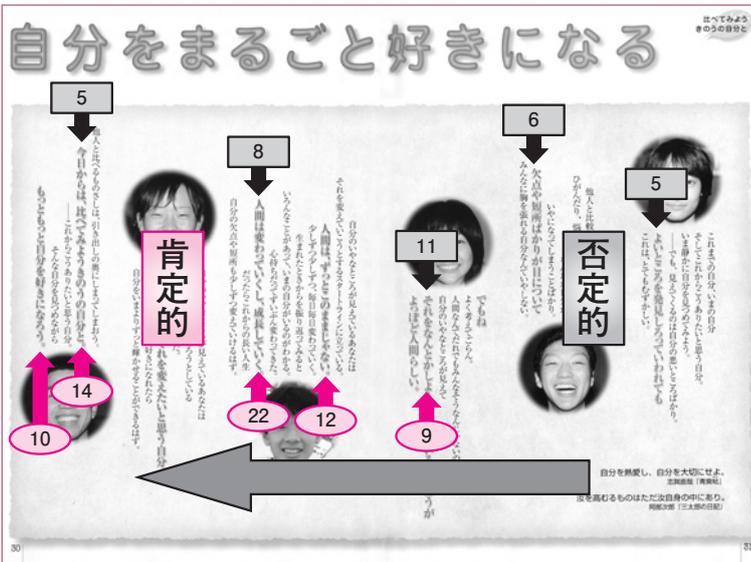
③授業の展開

事後	終末	展開	導入
ワークシートを家庭に持ち帰り、保護者の方にメッセージを書いてもらう。	今日の学習を振り返り、感じたことや気づいたことをワークシートに記入する。	ワークシートにある肯定的なことばの中から自分の長所に当てはまるものを三個選び、理由とともに記入する。 自分が選んだ長所とその理由をグループで発表する。 『心のノート』30、31ページを再度読み、共感する部分に★のシールを貼る。	『心のノート』30、31ページを読み、共感する部分に●のシールを貼る。

〈資料1 視覚的にとらえた個人の変容例〉



〈資料2 視覚的にとらえたクラスの変容〉



④ 貼ってわかる！ 自分の心の
変容
〔資料1〕のように、

- ・ 導入時に『心のノート』30、31ページを読んで共感する部分に●シールを貼る。
- ・ グループ活動を行った後に再度『心のノート』の同じページを読んで、共感する部分に★シールを貼る。

← この作業を通して生徒は自分の心の変容を、視覚的にとらえることができた。

□：導入時に貼られたシールの枚数

また、授業後に生徒が貼ったシールの枚数を集計し、それぞれ上位五つを〔資料2〕のように表した。

○：グループ活動後に貼られたシールの枚数

導入時
自分のことを否定的にとらえる文章が多い31ページ
←
グループ活動後
自分のことを肯定的にとらえる文章が多い30ページ
に多くのシールが貼られていた。

← クラス全体が大きく変容していた様子を視覚的にとらえることができた。

⑤ 授業後の思わぬ発見
シールを貼る作業を通して、自分の心の変容に気づいたり、自分をまるごと好きになったり、自分を意図して、この授業を行った。今回の授業を通して気づいたことを挙げる。

- ・ クラス全体が大きく左側（肯定的な方向）にシフトした。
- ・ 自分のことを好きになるだけでなく、クラスの友だちのことも好きになった（他者とのかわりのなかで自分のことをみつけることができた）。
- ・ ページ構成に意図がある（31ページが否定的、30ページが肯定的に自分のことをとらえている）。
- ・ 『心のノート』は生徒に安心感を与える。

⑥生徒の反応

《『心のノート』の同じ文章を2回読んでの感想》

- ・考え方が少し変わった。
- ・自分のことを前向きに考えることができるようになった。
- ・自分の気持ちの変化が読みとれてよかった。
- ・2回文章を読むことで深く考えることができた。

←シールを貼る作業を通して自分の心の変容に気づき、前向きな考えに変化している。

《授業後の感想》

- ・自分の長所を探したり、友だちと言いつけたりして、自分に自信が少しもてるようになった。今日、自分には自分だけのよさもあると思った。これからは自分のよいところをもっとよくしていきけるように努力していきたい。

←自己肯定感の高まりが見られる。

・最初選ぼうとしたときは、どれもあてはまらないと思った。しかし、友だちが思っている自分の長所はたくさんあった。今までは頼りにされているとは思わなかったけど、友だちは頼りになると思ってくれていた。新しい自分が発見できたような気がした。今までは悪いことばかり考えていたけど、これからはプラス思考をして可能性を高めていきたいと思った。

←自分のよさに気づき、それを伸ばしていくこうとしている様子が見える。

授業を終えて

教室中が笑顔であふれていたのが印象的であった。授業後に『心のノート』とワークシートを家庭に持ち帰らせ、保護者の方に

〈ワークシート2〉

3. 今日の学習を振り返って

今日、自分の長所を探したり、言いつけたりして、少し自分に自信がもてるようになった。今までは、他の人と比べて劣っている所ばかりが目に付いて自分が嫌いになることが多かったけど、今日の授業で、自分には自分だけの良さもあると思った。これからは人と比べるのをやめて、自分の良い所をもっと良く、悪い所は少しでも良くするよう努力していきたいと思う。

4. 保護者の方からのメッセージ

自分自身をみっけ直すよい機会を与えていただいたのだからお礼申し上げます。今まで自分が気付いていなかった良さに気付いたり、友達に気付かせてもらったこと、認めてもらう事で自分に自信が持てるようになったのだという事が伝わりました。自分だけの良さに自信を持って、時には立ち止まって自分を見つめ直すから成長していきなさい。

()年()組()番 氏名()

1年の時から見て、ゆかるとは、本当に素直にまっすぐに成長してきたお礼を申し上げます。くんは、いろんなことができるのに、自分に自信が持てないところも少しあったから、この授業で「自分に自信をもつ」ということを知ってくれたのならば、私もうれしいし、今後の5年間の成長に期待をしております。

メッセージを記入してもらった。保護者の方からのメッセージを読んで、「よいところも悪いところも自分のことをいちばんよくわかっていくことができるようになった」と生徒は語っていた。友だちからも教員からも保護者の方からも自分のことを認めら

れ、自己肯定感の高まりにつながった授業であったと思う。今後は、他領域との関連を図りながら自己肯定感を高める指導を行っていく必要があると考える。

なお、この実践は前任校（坂出市立白峰中学校）でのものである。（たにもとりつこ）

生徒のよりよく生きていこうとする願いに応える

かけがえのない きみだから

学習指導要領準拠／各県版資料付き

中学生の道徳 1～3年

■監修■ 滋賀大学名誉教授 村田 昇／元大妻女子大学教授・元文部省視学官 金井 肇

- ★カラーページを大幅増！
- ★道徳オリエンテーションのページを設定
- ★心にしみ、生徒の現実の姿に寄りそう資料を開拓
- ★いじめや人権教育、国際理解教育など、現代の教育課題に対応



- ★『心のノート』との関連を明示
- ★総合的な学習の時間などへの橋渡しとして構成された特設ページ「ピットイン」
- ★指導法が選べるバリエーション指導案を導入

——生徒の心に響く、魅力的な資料の数々——

- *「金閣再建 黄金天井に挑む」(1年・NHK「プロジェクトX」より)
- *「償い」(2年・さだまさし)、「ブラック・ジャック ふたりの黒い医者」(2年・手塚治虫)
- *「女闘士 成田真由美」(3年・アテネパラリンピック水泳金メダリスト) 他

■B5判

■定価各560円

(本体534円+税)

*県版はお問い合わせください。

■ご審査用見本セットに年間指導計画作成資料
CD-ROMが入っています。

■ご採用校には、朗読CDを進呈！

学研

●道徳ジャーナル51号●

平成19年9月発行

発行所 株式会社 学研研究社

発行人 清水晃一／編集人 近藤 茂

本誌のお問い合わせ先

学研 学校教育事業部

〒146-8502

東京都大田区仲池上1-17-15

内容については

TEL (03) 3726-8401 (編集)

それ以外のことは

TEL (03) 3726-8134 (販売)

E-mail gakkokyoiku@gakken.co.jp (代表)

URL <http://www.gakken.co.jp/kyokatosh/top.html>

●「道徳ジャーナル」は、上記ホームページでもご覧いただけます。

『道徳ジャーナル』誌では、全国の先生方の道徳授業の実践を、広く紹介していきたいと考えています。

形式や体裁は自由ですが、学研版副読本掲載の資料か、先生のオリジナル資料で行った実践を希望します。郵便、FAX、Eメールなどで、編集部までお送りください。お待ちしております。

(薄謝進呈)

子どもたちの喜びを第一に考える教師のための

教育ジャーナル

「教育を、学校をよくしたい」「子どもたちを幸せにしたい」と願う教師必読の月刊誌！

0120-0751525

まで。

●定価四百円(税込)
●お申し込み、お問い合わせは
お近くの書店、または
学研のフリーダイヤル

編集方針は
「がんばれ！ 公立校!!」
全国の学校の
優れた実践を紹介します
最新の教育時事問題を
学校現場目線で見解を

9409676020